

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「主体性を育む教育を」
FD推進委員会委員長
学長 廣瀬 良弘
- 「大教場での講義で感じること」
法学部法律学科非常勤講師
末澤 国彦
- 平成25年度新規採用教員オリエン
テーション
- 平成24年度FD推進委員会及び小委員
会の活動報告
- FD推進委員会の今後の活動予定
- ICT利用による教育改善研究発表会
のご案内

主体性を育む教育を

駒澤大学FD推進委員会委員長

学長 廣瀬 良弘

禅寺でよく「随処に主となれ」といわれる。禅寺での掃除は、一定の場所を集団で任され、皆と同じような作業をしているうちに終わるといことが多いが、時には、いきなり掃除をする集団の中に加えられ、何をしてもよいかかわらずにウロウロしていると、「仕事は自分で見つけるものだ」といわれることがある。多くの場合は結局、近くのものやっていることを真似て終わるといことになる。しかし、この掃除の集団の中で、自分のやれることは何かと考え、後ろからついていくのではなく、自分のできる作業を見つけて、存分に力を発揮できるようになっていく、という場合もある。「随処に主となれ」とはこのことである。日頃の生活のさまざまな場面で、人の後ろからついていけばよい、どうせ自分などはたいしたことはできないのだから、という消極的な考えはやめて、集団の中でも、それに飲み込まれることなく、自分は主となって働けるものである、主となって働かなければならないと考え、何事にも、自分を常に積極的に意義付けていく主体的な姿勢を求める言葉である、と私は長い間、そう解釈してきたし、今も変わらない。もともとは「随処に主となれば、立つ処、皆、真なり」が短くなったもので、周囲の動きや情報に引きずり回されない主体性を持っていれば、真に生きがいのある人生が送れる、という意味である。

大学の教育において、課題解決型の能力を身につけた、積極的で主体性のある学生の育成が求められてきて久しい。このような主体性を身につけた学生は社会からも望まれ、本人自身も生涯においてあらゆる場面で、課題を見つけ解決する能力をいかに発揮してゆけることになるのである。

本学の学生にも、是非とも主体性を身につけて社会に出て行ってほしい。この主体性は、学習力・研究力・生活力・人間力を合わせ持った総合力のなかから生まれるのではないかと思う。これまでの「フレッシュマンセミナー」やこれからの大学全体で始まる「新入生セミナー」などにおいて、できる限りスムーズに大学の授業になれ、「仏教と人間」の授業により駒澤大学の精神に触れてもらい、基礎学力を身につけて、専門分野や専門研究の世界に踏み込んでいってほしいと思う。

主体性を身につけるには、授業を鵜呑みにしないで、自ら確認し、応用すること、頭で理解するものではなく実際に行動にまでもたらすことが必要である。これが「行学一如」の教えるところである。たとえ大人数の講義であっても、様々な工夫を行ない、学生の実践感覚を豊かにする授業を展開していただければと思う。これまでの授業は教員個々の努力にすがってきたが、このことはこれからも今まで以上にお願いするところであるが、その環境整備については当局として、財政再建期ではあるが、できる限り検討してみたいと思う。

主体性を身につけた学生を送り出すために教職員のご協力をお願いする次第である。

連載企画：よりよい教育のために

「大教場での講義で感じること」

法学部法律学科 非常勤講師
末澤 国彦

現在、私は駒澤大学法学部で「日本法制史」を担当しております。教室は1-401 教場、いわゆる大教場と呼ばれる教場です。また、他大学でも「法学（日本国憲法を含む）」といった科目では大教場で講義を行う機会が多い状況です。

さて、大教場での講義という、教員の側からは「教場内を落ち着かせるのに時間がかかる」、「後ろの学生まで目が届かない」、「一方的な講義で終わってしまう」、「試験の採点が大変だ」といった問題があり、できれば大教場は避けたいと思っている方が多いかと思えます。一方、学生の側からは「周囲がうるさくて講義に集中できない」、「席取りが大変だ」、「黒板やスクリーンが見づらい」といったデメリットを指摘する声が聞こえてきます。また、「内職がしやすい」というメリット(?)もあるようです。

そこで、これまでの大教場での講義の経験からいくつか感じたことを記してみたいと思います。

まず、科目によって学生に温度差が見られることです。それは、専門科目と教養科目の違いです。専門科目の場合は、学生自身が講義内容に関心をもって臨んでいるせいか教場内が落ち着くのも早く、また早く終わるテーマの時などに質問の時間を設けておくと、最初は一人二人ですが徐々に人数も増えるようになり、何とか一方的な講義になることが避けられているかと思えます。これに対して、教養科目の場合はさらに文系学部と理系学部で大きな違いが見られます。文系学部の場合は、専門科目と異なり学生の関心度には多少のばらつきが見られるものの、専門科目と同様に質問の時間を設けておくことで、ある程度一方的化しないようにできているのではないかと思います。一方、理系学部の場合は、関心をもって臨むというよりはむしろ、単位充足のためであるとか教職課程履修のためといった積極的ではない理由で履修している学生が多い上に、小学・中学・高校と社会科・公民科が苦手であるという学生が多いというのが現状です。そのため学生の反応も理解しているのかどうか判然としない状態になりがちです。そこで、ここ数年は最初の5分間程度、講義のテーマとは無関係ですが、

学生が興味を引きそうな話をしてから本題に入るというスタイルを取っています。すると、最初の話をつきかけに色々と話しかけてくる学生が増えるようになりました。現在は、文系学部でも取り入れております。

また最近、IT 機器を持ち込む学生が増えてきました。彼らがきちんとノート・メモを取っているのかゲーム等に興じているのか判然としないので、これをどうするかが目下のところ私の課題です。



平成25年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も4月1日に新規採用教員を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員9名、非常勤教員32名の計41名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より、冊子『駒澤大学の沿革と建学の理念』に基づき本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育課程等について説明がありました。前FD推進委員会小委員会委員長の熊本英人委員長（仏教学部教授）からは、本学のFD活動について説明をいただきました。

事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザーID」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室までご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から教員教育研究費等に関する説明を行いました。

今後のより良いオリエンテーションに向けた改善を検討しております。ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

会場の様子



平成24年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

平成24年度

4月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催

5月

- ・第1回FD推進委員会及び小委員会を開催

6月

- ・第2回FD推進委員会及び小委員会を開催
- ・2012年度「学生による授業アンケート」(前期)の実施
- ・FD NEWSLETTER 第31号を発行

7月

- ・第3回FD推進委員会及び小委員会を開催

9月

- ・FD NEWSLETTER 32号を発行

10月

- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催

11月

- ・2012年度「学生による授業アンケート」(後期)の実施
- ・平成24年度FD研修会を実施
- ・平成24年度公開授業の実施(12月5日まで)
- ・第3回FD推進委員会を開催
- ・第5回FD推進委員会小委員会を開催

12月

- ・FD NEWSLETTER 33号を発行
- ・第4回FD推進委員会及び第5回FD推進委員会小委員会を開催

2月

- ・第6回FD推進委員会小委員会を開催

3月

- ・第5回FD推進委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第34号を発行
- ・平成24年度『FD活動報告書』を発行

平成25年度FD推進委員会の今後の活動予定

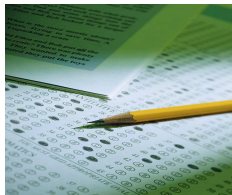
- 平成25年度第3回FD推進委員会小委員会
平成25年7月24日(水) 16:20~

○2013年度「学生による授業アンケート」(後期)実施の

お知らせ

実施期間：平成25年11月11日(月)~

平成25年11月16日(土)



対象科目：全科目対象(集中講義科目、演習科目、受講生が20名未満の科目は除く)

ICT利用による教育改善研究発表会のご案内

この発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT利用によるFD活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的として、平成5年より実施しています。(開催要項より)

発表一覧(33件)等詳細につきましては、各学部学科事務室に配布致しました開催要項、もしくは私立大学情報教育協会HP

(<http://www.juce.jp/LINK/houhou/13houhou/>)をご覧ください。

参加を希望される専任教員は、7月19日(金)までに事務局(教務部教育支援係)にお申し出ください。

1) 開催日

平成25年8月10日(土)

2) 会場

東京理科大学 森戸記念館
東京都新宿区神楽坂4-2-2

3) 本発表会のねらい

教員個人や大学・学部等組織レベルでのICTを利用した教育改善の取り組みと効果を公表することで、教育方法の改善、教員の意識改革、教育業績の評価など、大学・短期大学の課題の解決策を提案し、教育の質的向上を図る。

編集後記

元来、『主体性、積極性』とは、個人の資質に大きく起因すると捉えられていたが、現状では、社会の求める人材が、専ら「自ら課題解決できる主体性のある学生」であり、個性の問題では済まされなくなってきた。

こういった状況では、大学教育の中で主体性を身につけた学生を育成するというのは、訓練に近いものが必要になるかと思う。

講義、ゼミ、演習の中で、学生が主体的に活動する場面が繰り返し行われること、そのための授業内容はもちろん、手法の研究はさらに要求が高くなっていくだろう。

常に学生や社会の現状把握に努め、危機感を持って現場に臨むために、本委員会の役割は益々重要になってくると思われる。

(飯塚 大展・松田 健)



【タイトル横の写真は、榊研究館】

FD NEWSLETTER Jun. 2013 第35号

発行日：2013年6月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)